

は し が き

番組制作のプロセスで、小さなトラブルが起こるのは日常茶飯事である。時には修復ができないほどの事態になり、週刊誌を賑わしたりする。制作チーム内のトラブルの原因の中で最も多いのは、お互いの役割分担に関することであろう。やるべき仕事をやってくれない、逆に越権行為をする……

教育番組の場合も例外ではない。4～5人の小さなチームの中で、小さなトラブルが発生する。教育番組の場合、トラブルの多くは、出演や監修の先生とディレクターの間で生じる。お互いの役割分担についての共通理解が、なかなか成立しないことによる。

本報告書は、映像教育ソフトの制作体制や制作チームの構成および構成員の役割分担に関するふたつの研究報告から成っている。

ひとつは、「教育ソフト制作チーム構成員の役割分担に関する調査・研究」プロジェクトの報告である。この調査は、テレビ教育番組の制作システムの特徴を明らかにする目的で行われた。調査は、比較検討を加えるために、NHKの教育番組だけでなく、NHKや民放各社のドラマ、ドキュメンタリー、バラエティなど様々なジャンルのテレビ番組を対象に行った。さらに、放送番組とは異なる独特の制作システムを持っていると思われるパッケージ型の教材ソフトも調査対象に加えた。対象となった番組・ソフトの数は20余りである。

我々の関心の中心は、番組の内容や演出の根幹に関わるような重要な事項の決定が、制作チームの中の誰によってどのようになされているかであった。「たてまえ」としての役割分担だけでなく、実態としての役割分担をも明らかにしようとした。プロデューサーとは何か、ディレクターとは何かをめぐっての調査と言い換えることもできる。

もうひとつは、発足後10年を経過した放送大学のテレビ授業番組の制作システムや制作チーム構成メンバーの役割分担について、その特徴を整理・分析したレポートである。ここではディレクターと出演講師の関係が中心テーマである。また、「プロデューサー」が存在しない特異な制作チームを授業番組の性格と関連づけて説明しようと試みた。

このふたつの報告が、放送大学をはじめ教育ソフトの制作に関わっている多くの関係者にとって、少しでも参考になれば幸いである。

最後に、調査に快くご協力頂いた、各放送局や制作会社の皆さんに、心からお礼申し上げます。

平成8年7月31日

佐々木 正實